

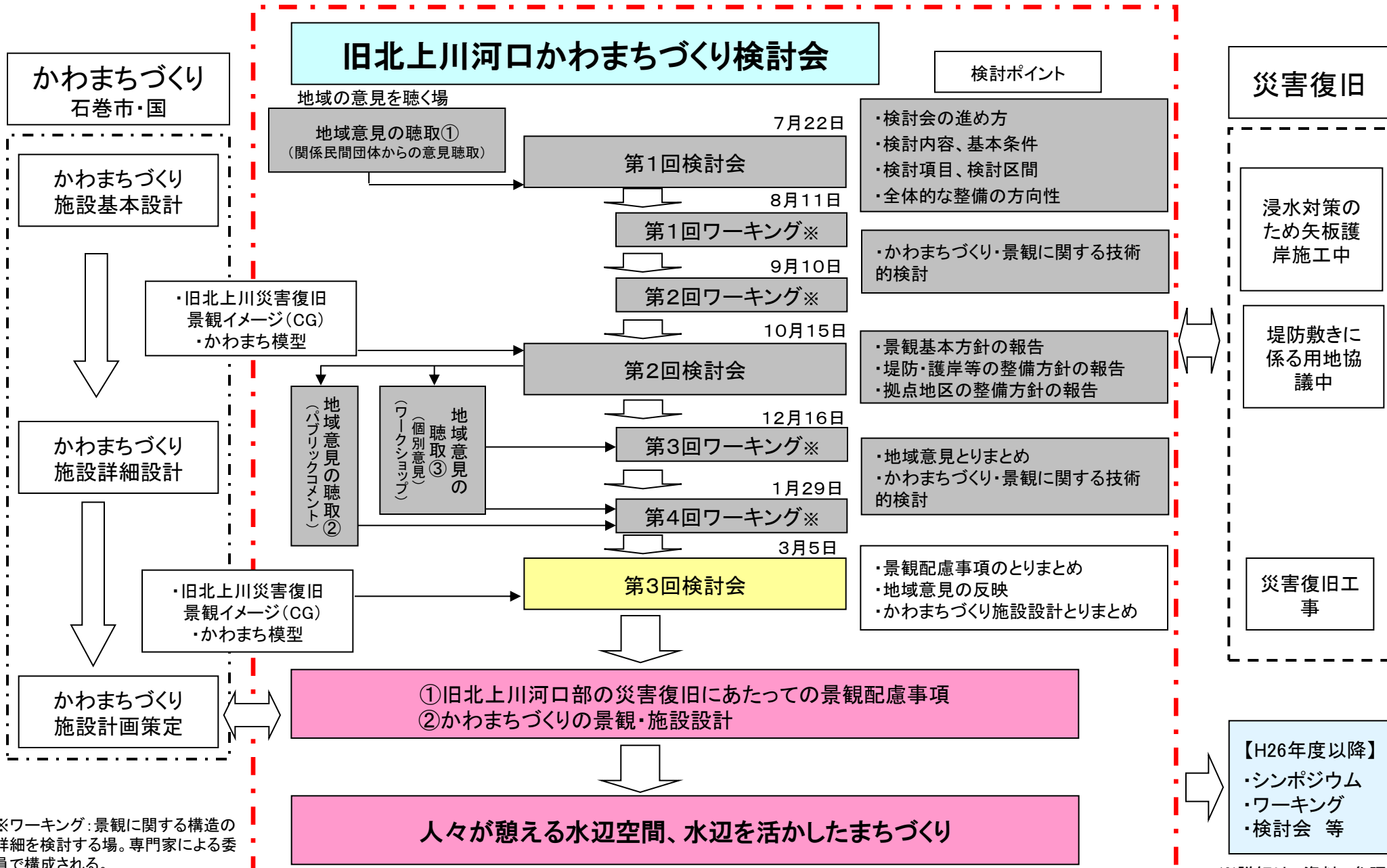
旧北上川河口かわまちづくり検討会資料

第2回検討会 議事要旨

平成26年3月5日

東北地方整備局 北上川下流河川事務所
石 巻 市

1. これまでの検討の流れ



※ワーキング: 景観に関する構造の詳細を検討する場。専門家による委員で構成される。

※詳細は、資料2参照

2. 第2回検討会 議事要旨

第2回旧北上川河口かわまちづくり検討会

◎日時:平成25年10月15日(火)13:00~15:30

◎場所:石巻グランドホテル(羽衣の間)



■ 主な意見と検討内容

主な意見等		検討内容
護岸形状	【テラス高】 ①港湾事務所では、1~1.2kmでは、港湾の基準に従い、T.P.+1.7mが必要と考えている。 ②テラス高は、できるだけ低い方が良い。 ③港湾事務所と河川事務所の両者間で調整を行うこと。	港湾事務所と調整の結果、テラス高を以下のとおり設定。 ・下流区間(1.6kより下流) : T.P.+1.4m ・内港地区 : T.P.+1.7m ・それ以外の区間 : T.P.+1.2m(堤防高さの擦り付け区間で高さを調整する)
	【法尻部】 法尻の腰積み擁壁は、必要な部分での使用を考えるべき。	拠点地区等に限定して使用する。
	【船舶係留あり区間】 小型船舶の接岸が想定されるため、乗り降りのための配慮が必要である。	中央地区(右岸、左岸)、八幡地区等の拠点部に設置する。
	【捨石】 ①石巻河口に捨石護岸は馴染まない。 ②色々な意見があると思うが、いくつかの案をパブコメ等で提案し、意見を募る必要がある。	捨石護岸を基本とするが、従来の風景を保全・再生するため、構造上可能な箇所については、石積護岸の保全・復元を図る。

主な意見等		検討内容
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">拠点地区の整備</p> <p>【中央地区】</p> <p>①デザイン方針「かわまちづくりの中核となる場」では、どこでも通用する言葉になっており、中央地区らしい「川湊」「路地とのつながり」等の当該地区ならではのキーワードを含めるべきである。</p> <p>②ディテールの議論をする前に、この空間の使い方(普通するとき、川開きするとき、その時の動線、空間の分節等)を議論するべきである。</p> <p>③まち側の議論がまとまらないこと(時間的制約)を考慮すると、コスト、維持管理等を考慮して、なるべくリーズナブルにすることが妥当であり、インフラにはあまりテイストを感じさせない方が良く考える。</p> <p>④井内石を使った(すべりを考慮して立面に使用)モダンデザインを基本とすることが良いと思う。</p> <p>⑤デザインを考えるにあたっては、上流側との連続性も考慮すべきである。</p>	<p>意見を踏まえ、デザイン方針ならびにデザイン案を修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川湊としての実用空間であること、イベント時も含め多目的に使われることなどを踏まえ、過度な装飾は避けた機能的かつ居心地のよい空間作りを念頭にデザイン案を検討。 ・舗装のアクセントや腰積みなどに井内石を使うことを想定し、デザイン案を検討。 	
<p>【住吉小学校前】</p> <p>①堤防法線が滑らかな曲線となっているが、元の地形や堤防の堤内側の堤防の名残との関係を考えるのであれば、滑らかに擦り付けずに、連続性を切り離して旧堤防法線のラインを強調すべき。</p> <p>②ここは水衝部であることから、事務局提案のイメージは不自然で違和感がある。</p> <p>③子どもを遊ばせるとすれば、凸部(水制)の下流側に設けるべきと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住吉小学校児童を対象としたワークショップを開催(11/15)。 ・意見ならびに、ワークショップの内容等を踏まえたデザイン案を検討。 	

主な意見等		検討内容
拠点地区の整備	<p>【住吉神社前】</p> <p>神社関係者から意見を聴き、検討を進めること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住吉神社関係者に対して、意見聴取を実施(12/13、1/18)。 ・意見聴取の結果を踏まえたデザイン案を検討。
今後の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ①住吉小学校前の利用についてアンケート形式で意見聴取しようとしているが、誘導的になってしまうため、手間はかかるがワークショップ形式での意見聴取が望ましい。 ②湊地区(左岸側)も意見聴取の対象として欲しい。 ③住民意見聴取やパブコメを実施した後のフィードバック方法(報告会等)も考えておくべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ワークショップ形式で住吉小学校児童から意見聴取を実施。 ②市民を対象に、沿川全体を対象としたワークショップを開催し(12/22、2/18)、その中で湊地区(左岸)に関する意見聴取を実施。 ③検討結果を市民に報告するためのシンポジウムを開催することで、現在検討中。

3. 第3回・第4回ワーキングの検討内容

第3回ワーキング

◎日時:平成25年12月16日(月) 13:00~17:00

■ 主な意見と検討内容

第3回ワーキングでの主な意見等	検討内容
<p>【全体施設計画】</p> <ul style="list-style-type: none">・周辺の事業の情報を盛り込むこと。区画整理、高盛土道路、防災緑地、内海橋等の計画を盛り込んで、全体の形状を検討する必要がある。・<u>堤防のアースデザインを検討する必要がある。直線的な形状である必要は無い。</u>・特に、左岸側にはアースデザインを施す必要がある。右岸側、特に中央地区は港として硬いイメージが良いのではないか。・特にT字で盛土がぶつかる部分が何箇所かでてくるので、その処理等についてアースデザインを施す必要がある。・<u>第4回ワーキングにおいて、全体のデザインを提案する。</u>・<u>人為的な植生はしないとのことだが、生物多様性に配慮しない考え方はありえない。</u>・階段については、区画整理等の計画を見て設定すべきである。・階段や坂路等の位置は、全体の形の中で決めるべきである。階段の位置は、最後に決められる。・200m間隔では遠い。大きい階段ではなくてもいいので、小さい階段がたくさんあった方がよいのではないか。100mに1箇所程度あった方がよい。	<ul style="list-style-type: none">・<u>区画整理、高盛土道路、防災緑地、内海橋等の情報を踏まえ、全体アースデザインについて検討</u> <u>(平面図、横断図、坂路部分についての模型を作成)</u>・<u>植生箇所について、対象箇所を選定</u> <u>(湊地区の植栽箇所のイメージスケッチを作成)</u>・階段設置位置については、100mに1箇所程度設置することとし、詳細な箇所については、全体形状を決定した後に検討
<p>【堤防・護岸形状】</p> <ul style="list-style-type: none">・テラス高について、港湾施設を踏まえた結果、内港地区の船舶停泊あり区間(0.8k~1.2kを T.P.+1.7mとすることで、了承。	—

第3回ワーキングでの主な意見等

検討内容

【中央地区】

- ・基本的なデザイン案は良い。広小路からの擦り付け、内海橋等の擦り付け、階段や歩道橋等との関係など、背後地との調整等が必要である。
- ・提案の坂路の形状について、最後が階段なのはおかしい。
- ・背後地の再開発計画について、建物等も踏まえて一体的な検討が必要である。
- ・腰積みを1m以上にすると、子供が上ったり下りたりすることが難しい。子供達が上り下りできるほうが良い。
- ・特に、11番地区の前は硬いイメージでも良い。

- ・再開発、区画整理等の計画を反映し、全体アースデザインの中で、取り付け部等の細部についてデザインを検討

【住吉小学校前】

- ・樋管も入れたうえで、吐口の捨石の形状等を含めて、検討すべきである。
- ・子供達が遊ぶことを考えた場合、川裏より川表側が広い方が良い。裏に広場等を造っても子供は水辺に近いほうで遊ぶ。
- ・この場で水と触れ合うことは難しい。安全性も心配である。
- ・引き込むよりも、潟の方が自然に見えるとともに、安全性が高い。
- ・干潟を造れば、生き物が帰ってくるので、それで子供達が遊ぶのではないか。
- ・堤防線形を折り曲げることをやめてもいいのではないか。旧堤のイメージは、水制で表現することでよい。
- ・水制の部分に登ることは危険であるため、水制に乗らないようにする工夫が必要である。

- ・意見を踏まえ、堤防法線の見直し、干潟の造成等を考慮したデザイン案について再度検討
(平面図、横断図を作成)

【住吉神社前】

- ・基本的なデザインは良い。
- ・イメージスケッチをきちんと描いて欲しい。
- ・石積みの方法を検討する必要がある。また、石積みの隅切りの形状等をきちんと設計すること。

- ・参道-鳥居-雄島の軸線を修正したデザイン案を検討
(形状確認のために、模型及びイメージスケッチを作成)

第3回ワーキングでの主な意見等

検討内容

【住吉神社前】

- ・境内の敷地盤高が上がるので、石積みのエッジで見切られ、雄島が見え難くなる。参道-鳥居-雄島(巻石)の軸線は、極力まっすぐにし、参道から雄島が見えるようにした方が良い。ただし、堤防の定規断面を侵すかどうかを確認が必要である。
- ・どんと焼きや利用面で必要な形は、神社とも調整をお願いしたい。

【南浜地区】

- ・市と国で、形状については調整を行う。
- ・陸の部分の形状がRになっているが、港なので直線的な方が良い。

【湊地区】

- ・地元から、津波に対してより安全な整備を求められており、市では背後の盛土空間で一定の高さを確保するよう検討している。
- ・ディテールをきちんと設計する必要がある。
- ・防災緑地(二線堤)等と一体として提案する必要があるため、堤防デザインはまち側への提案についても盛り込んで検討を行う。

- ・全体アースデザインの中で、細部形状を検討
(イメージスケッチを作成)
- ・九州大学で模型製作。その後、職員でワークショップを行い検討する。

【藤巻・井内】

- ・矢板無しの構造で了承。
- ・パース等で、立体的なイメージを確認する必要がある。

- ・基本形状に関するイメージスケッチを作成

【中瀬地区】

- ・護岸復旧のラップストーン工法は、石の積み方次第であるので、練習をさせてから積むこと。

—

■主な意見と検討内容

第4回ワーキングでの主な意見等	検討内容
<p>【堤防アースデザイン】</p> <p>○全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理用通路はアスファルトを基本とすることで良い。縁石は入れずに、境界部をぼかす。 ・テラス部分の舗装については、拠点となる地区以外については、コンクリート仕上げが基本で良い。 ・植栽樹種についても検討が必要であるが、周辺に生えているヤナギ等を持ってくることなども考えられる。また、一本独立した高木は難しいと思うので、株立ちにするようなイメージで良いのではないか。 ・ワークショップ等での意見も踏まえて、水面利用ができる場所を、捨石を階段状に上手く積む場所を各所に配置することで、もう少し増やすべきではないか。 <p>○門脇地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川側からみれば川側に変化をつける方が良いが、市街地となること堤内側で工夫できないか。 <p>○南浜地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日和大橋下の凸型部分の矢板ラインが不整形なので、捨石等での水際の処理を上手く行うこと。 <p>○湊地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植生については、矢板前面の修景捨石により、修景捨石の全区間でヨシ等の植物が生育できる水際環境を創出することが基本である。 ・また、まとまった植生環境の場については、植生基盤の確保が必要なため、広いテラス幅の中で植生環境を形成することで良い。 ・防災緑地について、市の構想(盛土空間)部分も含めて、一体的にデザイン提案をすべきである。 ・<u>この区間については、九州大学で模型を製作いただき、それを基に職員と一緒に検討する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>九州大学にご協力をいただいて製作した模型を基に、職員と堤防形状に関するスタディを実施(2/26)。</u> ・意見を踏まえ、今後詳細な堤防設計を実施。 ・今後の設計、施工にあたっては、デザインの方針が確実に反映されるよう、デザイン監理を行っていく予定。

第4回ワーキングでの主な意見等	検討内容
<p>○八幡地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢板の線形が折れている箇所があるので、水際の処理(捨石ライン)でぼかすこと。 ・矢板の線形と法尻のラインが並行に通るよりも、法尻のラインを通して、水際の線形が湾曲するような方が良い。ただし、矢板のラインが見えるとダブルラインで違和感が生じるため、捨石でぼかす必要がある。 	
<p>【パブコメ・ワークショップ意見について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの意見を聴いている中では、検討自体間違った方向には進んでいない。 ・市民は旧北上川を大切に思っており、北上川を良い川にして欲しいという思いが強い。 ・歴史遺産等に対する思い入れが想像以上に大きい。 ・水面と視覚的な繋がりが失われる分、水面利用の活性化をすることにより、地域と川との結びつきを強くする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>意見を踏まえて、全体配置等について見直しを実施。</u> ・今後、川側の利用とまち側の整備の結びつきについて、調整を図りながら具体方策を検討する。
<p>【住吉小前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・干潟の形成を重視し、「川側のスペースをより広く確保した案」を基本とする。 ・水制工の部分から万が一転落した場合の対策として、水制工の下に捨石で段差(緩衝部)を作る。 ・干潟の形成については、干潟の専門家に相談した方が良い。 ・旧堤防法線を受ける形で、堤内側に階段を設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>意見を踏まえて、デザイン案を修正。</u> ・干潟の形成にあたっては、今後干潟の専門家に相談しながら検討を行う。
<p>【住吉神社前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山に付く堤内側の法面を、緩く馴染ませる必要がある。 ・石積み擁壁は、3分勾配を基本とし、階段部の肩部の処理に工夫(一段低い段を設けるなど)が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>意見を踏まえて、デザイン案を修正。</u>

第4回ワーキングでの主な意見等

検討内容

【住吉神社対岸(八幡地区)】

- ・利用の場と堤内側の駐車場などをセットとして考えられると良い。
- ・このような場所が2箇所だけで良いのか、地元との調整が必要である。
- ・デザイン案のデッキ部について、コンクリートで段差を付けることで良いのではないか。

- ・今後、川側の利用とまち側の整備の結びつきについて、調整を図りながら具体方策を検討する。

【藤巻・稲井地区】

- ・かわどは、川側に張り出すよりも、テラス側に引き込んだイメージが良い。川側に垂直に降りていき、水面に2～3段階がある形状が、当該地区の本来のかわどの姿である。
- ・管理用通路の位置づけではないため、テラス幅を狭くして、引き込ませる形状とする。
- ・ここは、工事中と工事後の形が違うので、分かりにくくなっている。県道も含めた完成形の平面形、断面形を正確に描いてもらいたい。
- ・人は積極的に歩かせることはせず(1.5m程度を確保)、水際線は極力既存の石積みを残すこととし、現況の地盤高を狙いステップ高さを設定すること。

- ・意見を踏まえて、かわどの形状等について、デザイン案を修正(かわど全体に共通)。
- ・水際線については、極力石積みを残す形で、形状について再検討を実施中。

【中央地区】

- ・イベントや賑わいを生み出すスペースは、11番街区の前が基本となる。
- ・11番街区の前から川側にアクセスできるようにすることが必要である。
- ・本街区のメインエントランスとなる箇所を仮設定し、それを受ける階段を入れる。実際に街区の計画ができあがった段階で設置位置を見直すよう、引き継ぎ事項として整理しておく。

- ・意見を踏まえて、デザイン案を修正。